

令和7年度 学校関係者評価報告書

(大原ビジネス公務員専門学校高崎校)

1. 実施日時

令和7年8月5日(火) 15時00分～16時00分

2. 場 所

大原学園高崎校 4階 IT LABO-B 教室

3. 学校関係者評価委員

金光 寛之 様 (高崎経済大学 教授)

磯貝 丈晴 様 (富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社群馬支社 支社長)

市川 芳美 様 (近隣住民)

今井 祐希 様 (本校卒業生 群馬県学校事務 (高崎市立多胡小学校))

(事務局)

古堀 照久 (大原学園高崎校 校長)

倉石 学 (大原学園高崎校 教務部長)

外山 和哉 (大原学園高崎校 教務課長)

松岡 佳吾 (大原学園高崎校 教務課長代理)

4. 会 議 録

(1) 学校長挨拶

(2) 令和6年度各コース実績・カリキュラムに関する報告、自己点検・評価報告

受験指導・就職指導は問題なくできており、令和6年度の大原学園全国専門課程の就職内定率や公務員採用率、資格取得率や学生の満足度調査結果など、例年同様に良好な成果を収めている。また、高崎校においては、学園全体の成果に見劣りしない成績が出せており、各学科、各コースの状況に応じた受験指導や専門的技能などの実践教育が図られ、安定した資格取得率・合格率を維持できている。なお、令和6年度に向けて課題となっていた退学者の抑止に関しても向上がはかられ令和7年度も継続して退学者の低減に努めていく。

引き続き、好成果を残すため、教職員の知識力や指導力の向上、社会活動や地域貢献活動等に取り組みながら、各委員のご意見を参考にして適切な学校運営を行なっていきたい。

(3) 学校関係者評価委員会からの提言

➤ 『学校運営』について

《関連する項目》

2-2 運営方針、2-3 事業計画、2-4 運営組織

《現状・達成指標》

- ・学校法人大原学園としての指針等を高崎校へ落とし込み、毎年事業計画（目標達成プログラム等）を策定してそれをもとに学校運営を行っている。さらに適正な学校運営をおこなうため、企業の立場としての取り組み、工夫点などをご助言いただき参考にさせていただきたい。

《学校関係者評価委員からの提言》

- ・各県に支社があり全国で1万人の社員がいる。支社長が集まる運営会があり、毎月社長の訓示などが共有される。そのような中で、全国統一のオペレーションはなかなか難しい状況にあり、会社の方針に沿って支社運営を行わなければいけない。今現在は群馬県、その前は福島県、神奈川県で支社長を担ってきたが、各県によって社員の受け方や反応が異なる状況がある。そのため、運営会後に社員に伝わりやすいように自分なりの解釈で、自分の言葉で伝えるようにしている。また、地域に即した形で多少アレンジして伝えるように工夫している。群馬支社は現在160名ほどの社員がいて、対話型重視でコミュニケーションを多く進めるように心がけている。（磯貝委員）

➤ 『教育活動』について

《関連する項目》

3-8 目標の設定、3-9 教育方法・評価等

《現状・達成指標》

- ・目標設定をしたうえで、教育を提供していくが、年々学生のコミュニケーションが難しく感じるようになってきた。また、通信制・定時制高校を卒業して大原学園に入学する方の割合が徐々に増加してきており、全体の2割を超えてきている。そういった観点から、担当者が学生対応（アプローチ方法など）に苦慮している状況を見かけ、同じ教育機関として、現状どのような状況変化があり、注意すべき点などをご助言いただきたい。

《学校関係者評価委員からの提言》

- ・最近では、スマホゲーム、SNSなど昔と大きく変わってきている状況があり、大学でもそういったことが話題に挙がり、コミュニケーションの取り方が変化してきているように思う。また、話を聞いてもらいたいがうまく話せないタイプの若者が増えているようにも感じる。そのため、勉強はほどほどに遊び8割でいいと伝え、学生に安心感を与えるようにしている。ただし、親に迷惑をかけない、警察沙汰にならない、などのモラルの部分についても伝えるように工夫している。今まで生きてきた中での考え方を変えてあげることが重要でそのために話を聞いてあげる努力をしている。（金光委員）

- ・乳幼児は、まだ勉強（学習）する段階ではないので、そのような変化については、子ども達には表れていないように思う。もしかしたら子ども達の親世代が以前までとは違う可能性もあるが、当園の場合は比較的に年齢層の高い保護者が多く、一昔前の保護者と大きく変わっていないように感じる。また、最近入職してくる職員（幼稚園教諭）も良い人材が多く、そこまで変化しているようには感じていない。（柳澤委員）
- ・ここ数年、採用に携わっている立場として、最近の応募者については、良く言えば素直であると感じることが、以前と大きく変わってきたところだと思う。今までは当社が第一志望でなくても、まずは内定をもらいたいのので嘘でも第一志望ですと答える方が多かったが、今は正直に第一志望ではないと答える方が多く、分かりやすいと感じる。また、TPOに合わせた立ち居振る舞いができない方も多くいて、そういう意味でコミュニケーションが難しいと感じることはある。（大谷委員）
- ・今は売り手市場のように思う。そのため、面接して採用する側は我々ですが、応募者は企業が自分に相応しい企業かを意識されていると思う。応募者が企業を選択する段階から、ある意味我々が面接をされているような感じとなっている。採用活動に注力して、我々企業側が一生懸命になっている傾向もある。（磯貝様）

➤ 『学修成果』について

《関連する項目》

4-13 就職率、4-15 卒業生の社会的評価

《現状・達成指標》

- ・学生は、資格取得や知識・技術の習得のために専門学校（大原学園）を選んで入学しているが、あくまでも最終的な目標は就職する、公務員になることであり、企業等の立場で採用するポイントなどがあればご助言いただきたい。

《学校関係者評価委員からの助言》

- ・ポイントとしては、第一印象を大切にしている。面接の前に会場到着時の所作であったり、面接後のオフィス見学時の所作だったりを注目することが多い。面接は、皆さん結構対策をしていて上手にやられている印象がある。10分・20分の面接の中で判断することは難しいので、そうすると面接よりも前後の行動に注目することが多くなる。（磯貝委員）
- ・業種によっても異なると思うが、サービス業の場合、自分の気持ちを言葉で表現できるか、コミュニケーション能力やレスポンスの速さに着目している。また、形式的な言動よりも臨機応変さが重要だと思う。（大谷委員）
- ・各委員の話を聞いて、面接以外でも見られているという意識が必要。面接が終わって緊張が解けて、悪い意味での『素』が出ないようにする。（今井委員）
- ・就職後を考えて場合、論理的に順序立てて話ができるように、日々トレーニングしておく

必要がある。(金光委員)

- ・面接で長々お話される方もいるが、話し終わった段階で質問は何だったっけとなる場合があるので、やはり明瞭簡潔にわかりやすい内容の話が良い。(磯貝委員)

➤ 『学生支援』について

《関連する項目》

5-17 中途退学への対応、5-18 学生相談

《現状・達成指標》

- ・令和6年度の大原学園高崎校全体での退学率が3.15%と前年度と比較して大幅に改善が図られている。今年度は約600名もの学生が在籍しており、数か月経過した段階ではあるが現在退学率が1%程度となっている。例年、夏休みなどの長期休暇明けに退学相談が増加する傾向にあるため、今後の退学率低減を図るためにご助言をいただきたい。

《学校関係者評価委員からの助言》

- ・やはりコミュニケーションを中心に対話していくしかない。最近では精神疾患を抱えて入学する方も増えており、そういった方が退学するケースも増えてきている。
大学の場合は、そういった方の対応を専門家(保健師、支援師など)にカウンセリングなどをお願いしている。我々は教員であり、疾患等の相談についてはやはり専門家に依頼していくしかない(金光委員)
- ・小学校の場合は義務教育なので退学するケースはほぼ無いが、ここ数年で不登校の生徒の割合は多くなっている。学校ごとに対応方法は異なるが、教員同士で共有しながら保護者や小学生と対応するケース、教員と事務員で立場関係なく対応するケースがある。(今井委員)

《関連する項目》

5-20 保護者等との連携、5-21 卒業生・社会人

《現状・達成指標》

- ・欠席が多い学生や退学示唆の学生などの場合、学生との対応はもとより保護者にも連絡して、対応するようにしている。そのような中で、注意しなければいけない点などをご助言いただきたい。

《学校関係者評価委員からの助言》

- ・気をつけていることは、まず直属の管理職への報告は必須、直接関係している担任や担当者とは相談しながら対応方法を検討する。校長や教頭に報告相談しながら進め、当事者との対応は担当者、教頭で進めるようにしている。それでも解決しない場合は、校長が話し合いに出るケースもあるが基本的には教頭までとしている。(今井委員)
- ・トラブル対応の場合、基本的には自園では最初から園長の自分が出ていくようにしている。

些細な内容であったとしても、自分が出て対応することで拗れにくくなり、当事者との話し合いもスムーズに進むことが多い。対応時に気をつけていることは、改善、解決しようとスピード感をもって対応することである。(柳澤委員)

- ・20年以上前のことですが、自分の子どもが小さいころは学校に対してそこまでクレームや指摘をするという状況もなく、周りの保護者にもそのような方はいなかったと思う。そのため、本日各委員の話を伺う限り、昔と今では相当変わっていて皆さんご苦労されていると感じた。(市川委員)
- ・クレームや指摘は、愚痴のような内容も多く、まずは話を聞いて欲しい、という方が多い。そのため、時間をかけて相手の話を聞くということが必要。(金光委員)

➤ 『法令等の遵守』について

《関連する項目》

9-31 関係法令、設置基準等の遵守、9-33 個人情報保護

《現状・達成指標》

- ・学校運営にあたりコンプライアンスは重要な部分となる。教職員に対してどのようにコンプライアンスを遵守させていくかという観点についてご助言いただきたい。

《学校関係者評価委員からの助言》

- ・昔とは大きく変わっていて、特に言動については注意しなければいけない。部下に対して我々が指導・教育されてきた方法をそのまま使うことはできず、受け手側の捉え方によってハラスメントになってしまうことが多くある。言葉遣い、ちょっとした『間』、表情、視線など、細かいところまでも意識してもらわなければいけない。(磯貝委員)
- ・学生に対するハラスメントも気をつけなければいけないが、職員同士も同様に縦の関係、横の繋がりなど色々気をつけなければいけないことがある。「ハラスメントとして捉えないで」と最初に言ってから発言することも大切になる。(金光委員)
- ・保育職員が子どもを呼ぶときの呼称についても気をつかう時代になっている。自園でも各種研修を行いながら、職員の認識が甘くならないように気をつけさせている。(柳澤委員)
- ・店頭で『カスタマーハラスメント対策しています』といったポスターなどを出して、従業員を守るような対策をしている。(大谷委員)
- ・月1回の職員会議内で、ハラスメント関連の事例研究を行っている。他県の小学校などで起こった事例を持ち寄り、どうすれば今回の事例は防げたのか、どのような対応が良かったのかなどを教職員みんなで考えて共通認識を持つ取り組みをしている。(今井委員)

5. 学校関係者評価委員会総括

今後も就職内定率や公務員採用率をはじめ、資格取得率などの実績や学生の満足度向上のために、

取り組んでもらいたい。そのことが大原学園高崎校（3校）の学生募集にも繋がってくる。また、教職員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組むことにより、高成果に繋がり、学生募集に関係して好循環を生み出す要因となる。ただし、学生の学力差が顕著になっているため、従来の手法にとらわれず将来的には画一的な指導手法も考え直していく必要があると思われる。

引き続き、教員の成長と共に人材育成を通じて優秀な卒業生を輩出することにより、結果的に社会貢献が果たせるように取り組んでもらいたい。委員一同、客観的な視点から様々な提言をして大原学園高崎校が成長できるよう助言していきたいと考えている。